

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24730148

研究課題名(和文) アラブ革命のジェンダーと権力に関する研究 グローバル・トランスナショナル関係から

研究課題名(英文) Study on Gender and Power in the Arab Spring: From Perspectives of Global/Transnational Relations

研究代表者

辻上 奈美江 (TSUJIGAMI, Namie)

東京大学・総合文化研究科・特任准教授

研究者番号：30584031

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2011年のアラブ革命後の中東地域のジェンダー秩序について権力の観点から検討するものである。本研究期間を通じて、文献調査を行うとともに、チュニジア、エジプト、サウジアラビア、バハレーン、レバノン、カタールおよびアラブ首長国連邦において、現地の女性を中心に革命時の経験に関する聞き取り調査を行った。本研究の成果は、講演会や論文そしてエッセイなどとしてすでに一部が報告されている。

研究成果の概要(英文)：This study aims at examining gender order from a perspective of power in the post Arab Spring Era in the Middle East. During the two-year research period, the researcher has done first-hand research in Tunisia, Egypt, Saudi Arabia, Bahrain, Lebanon, Qatar and United Arab Emirates. The study clarifies the diversity of the women's experience. Outcome of the research is presented at various lectures and papers.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：ジェンダー 権力 アラブ革命 イスラーム

1. 研究開始当初の背景

研究を開始した平成24年(2012年)4月、中東諸国は2011年初頭に起きたいわゆる「アラブの春」の先行きが見えにくい状況にあった。政治的混乱のなかであって、女性たちは抗議行動に参加したり、抗議行動を主導したこともあった。だが、他方で女性を対象とした暴力事件も起きた。また、デモに参加した女性たちを「身持ちの悪い女」とみなす言説も流通した。なぜ女性のあいだでこのような対照的ともいえる明確な差異が生まれているのか。またいわゆる「伝統的」な女性性への回帰が希求された背景には何があるのか。これらの問題群を解明するために地域に密着したデータの収集と活用にくわえて、グローバルそしてトランスナショナルな視点を取り入れつつ研究を行う必要があると思われた。

2. 研究の目的

本研究は、2011年のアラブ革命後の中東地域のジェンダー秩序について権力の観点から検討するものである。女性たちは、抗議行動を主導したりしてエージェンシーを発揮することもあった。抗議や革命の目的は、腐敗や不正に対して異議を申し立てることであったが、男性性の高揚のなかで数多くの女性がレイプやセクハラを受ける別の不正が生まれたことも事実であった。

中東地域のジェンダー研究の第一人者であるデニス・カンディヨティは、女性の教育レベルが向上し、多くの女性が労働市場に参入するようになった今、中東地域のジェンダー関係を「従来通りの家父長制」の枠組みで捉えることはもはやできなくなったと論じた。これは、画期的な問題提起ではあるが、では果たして「従来通りの家父長制」は消滅したと見なせるだろうか。

「アラブの春」が起こる過程では、先述のとおり「正義」を求める運動が結果的に「不正義」を生み出したこともあった。ジェンダーと権力の観点から、これらはどのように理解すべきだろうか。本研究では、これらをグローバル・トランスナショナルな視点を取り入れつつも、国家、宗教、そして女性のエージェンシーの観点から検討することを目的としている。

3. 研究の方法

本研究では、文献調査に加えて、チュニジアおよびエジプトなど政変を経験した国と、サウディアラビア、バハレーンなど政変を経験しなかった国において現地調査を行い、抗議デモに参加した女性の経験について聞き取り調査を行うとともに、抗議行動に派生して発生したジェンダー関連の事件を丹念に追う作業を進めた。それぞれの国や地域の状

況が異なるため、得られたデータの種類は同一ではなかった。しかし、調査を通じて女性間の経験が多様に広がっていることが明らかになった。エジプトで革命を主導した4月6日運動を主導した女性もいたが、デモに参加したために「身持ちの悪い女」とのレッテルを貼られ、処女検査を受けさせられた女性もいた。また、ケアテイクラーとしての女性が、デモをテレビでしか見ることができないといった一種の疎外感を味わうケースもあったことが明らかになった。

本研究期間内に行った活動は主に以下の通りである。

- 2012年7月 GRM 研究発表
- 2013年1月カイロ現地調査
- 2013年2月チュニジア現地調査
- 2013年3月サウディアラビア・バハレーンなど湾岸諸国現地調査
- 2013年6月チュニジア研究会の実施
- 2013年8月 IUAES 学会発表
- 2013年10月 MESA 学会発表
- 2013年11月 東京外国語大学中東研究日本センター(レバノン)バイルート若手研究者報告会発表
- 2013年12月 サウディアラビア現地調査
- 2014年2月カタール現地調査
- 2014年2月ナディア・アル=アリー(ロンドン大学教授)による講演会とワークショップの実施
- 2014年3月アラブ首長国連邦現地調査

4. 研究成果

調査を通じて、「アラブの春」によって女性たちの中のトランスナショナルな運動も顕在化した。同時に国や地域、宗教や宗派、そして社会階層によって女性たちの経験がきわめて多様であり、その多様性の内側を探っていく必要があることが改めて確認された。

たとえばヴェールの着用をめぐる、それが女性の身体を解放するのか、あるいは女性の身体を守る戦略性を有するのかといった差異が生じた。バハレーンでは、治安部隊の「夜討ち」に備えて、反体制派やシーア派の女性たちは明け方までヴェールを被って仮眠をとった。またバハレーンのデモ行進では、すべての女性がヴェールを着用してそれぞれの匿名性を維持しているようであった。催涙ガスが頻繁に打ち込まれるなど危険な状況が続く中で、ヴェールは女性の身を守る役割を果たしていた。

しかし、「青いブラの女の子」で知られるようになったエジプトの女性は、おそらくヴェールを着用していたにもかかわらず、治安部隊に引きずられ、その過程で上着がはだけて肌がさらけ出された。それでも治安部隊の暴力はやまず、治安部隊は青いブラの上から

胸を思い切り蹴るといった暴行を繰り返した。

女性性が象徴的な意味を有したことも看過できない。「アラブの春」の発端になったとされるチュニジア人青年の焼身自殺は、女性警官に殴られたことが象徴的な意味を与えることになった。「女性に殴られる男」に対する屈辱的なイメージが刻印された結果、プーアジージの焼身自殺そのものが、中東地域の諸政権を揺り動かす結果を生んだ。

他方で、女性のエージェンシーが政策に影響を与える例もある。たとえばサウディアラビアでは、女性による自動車運転解禁運動が起きるなど、多くのデモが女性によって主導された。自動車運転解禁には至らなかったが、女性が諮問評議会や地方選挙に参加できることが決定したのは、これらの運動と無関係ではない。

研究代表者は、これらの研究成果を論文や学会において発表してきた。現在は、これらを単著としてまとめることを計画している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

(1) 辻上奈美江、「サウジアラビアにおける高等教育の拡大と女性の将来」中東協力センター『中東協力センターニュース』2014年2/3月号、2014年3月、pp. 80-85.

(2) 辻上奈美江、女性諮問評議会議員の誕生—女性の教育レベルの向上、労働参加、そして「アラブの春」、中東協力センターニュース、査読無、2013年6/7月号、2013年6月、pp. 66-71.

(3) 辻上奈美江、湾岸諸国における雇用主の語りから探る家事労働者のヴァルネラビリティ/エージェンシー、白山人類学、査読有、16号、2013年3月、pp. 55-73.

(4) 辻上奈美江、文化に投資するカタール 2030年を見据えた将来構想、中東協力センターニュース、査読無、2012年4/5月号、pp. 65-71.

(5) 辻上奈美江、運転解禁に向けたサウディアラビア人女性による抗議行動と今後の展望、中東研究、査読無、第513号、pp. 105-111.

〔学会発表〕(計 4件)

(1) Namie Tsujigami “Exploration of Vulnerability/ Agency of the Female Migrant Domestic Workers” *Middle East Studies Association 2013*、2013年10月、New Orleans, USA.

(2) Namie Tsujigami “Being Single in Saudi Arabia” *17th World Congress of the IUAES*、2013年8月、University of Manchester, UK

(3) 辻上奈美江 「「アラブの春」はジェンダー再編をもたらすか」日本中東学会第29回年次大会、2013年5月、大阪大学、吹田

(4) Namie Tsujigami “Seeking for Diversity: Japan-Saudi Shifting Relations” *3rd Gulf Research Meeting*、2012年7月、University of Cambridge, UK

〔図書〕(計 11件)〔共著・共訳を含む〕

(1) 椎野若菜編、境界を生きるシングルたち、人文書院、2014、282

(2) 土屋一樹編、中東地域秩序の行方——「アラブの春」と中東諸国の対外政策、アジア経済研究所、2013年、203

(3) 松本弘編、現代アラブを知るための56章、明石書店、2013年、320

(4) 酒井啓子編、中東政治学、有斐閣、2012年、292

(5) (共訳) 鷹木恵子ほか、中東・北アフリカにおけるジェンダー イスラム社会のダイナミズムと多様性、明石書店、2012年、420

(6) (共訳) 中村覚ほか、21世紀のサウジアラビア、明石書店、2012年、768

〔その他〕

ホームページ等

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/UTCMES/teacher/113.html>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

辻上 奈美江

東京大学・総合文化研究科・特任准教授

研究者番号：30584031